

Web ページ探索を中心とした中国語講読授業

——自己学習能力の獲得を目指して——

村 上 公 一

はじめに

中国語を2年間学んだのに、中国語で書かれた本や雑誌や新聞を読むことができない。日本の大学の一般的な外国語カリキュラム週2コマ・2年間の中国語学習を終えた学生の口からこのような言葉が発せられることがある。読むことができないと感じれば、中国語で書かれたものに出会っても、敢えてそれを手にとって読もうという気も起きまい。まして、自分から中国語で書かれた情報を求めようとするのではないだろう。

だからといって、口頭によるコミュニケーションの学習時間を減らし、文章を読む時間を増やせと言っているわけではない。文章を読む授業、いわゆる講読スタイルの授業のありようを変えていくことによって、2年間の学習が終了した後も学生が自ら中国語で書かれた文章を読んでいくような環境を作れないか、少なくともそういった能力を学生が獲得できないか、というのが今回の課題である。

この問題の解決の糸口を求めて、2年次対象の中国語講読科目で、Web ページ探索を中心とした授業を試みた。半年間の実験の中で、確かな手応えのようなものを感じている。本稿では、今回試みたWeb ページ探索を中心とした授業実践と、この授業を通して培うことを目指した中国語の自己学習能力について報告をする⁽¹⁾。

1. 講読授業とインターネット

今日の社会では、インターネットによる情報の発信が盛んに行われるようになり、これにともない、中国語の学習環境は大きく変化している。なによりも、以前では新聞、雑誌、書物といった印刷物でしかなかくなか接することの出来なかった生の中国語文字情報に、自宅あるいは教室にしながら瞬時にアクセスできる環境は、中国語教育に大きなインパクトを与える。それは次の2点からである。

- (1) 教室で獲得した中国語読解能力を用いて、実生活で中国語文字情報を読むことが容易に出来るようになった。
- (2) 教室での学習の題材として、固定化された印刷教材ではなく、生の中国語文字情報を用いることが容易に出来るようになった。

これまでは、教室で獲得した中国語読解能力が実生活の場で試されることは殆どなかった。中国語文字情報に接するためには、図書館や中国書籍を扱う書店まで足を運び、自分の必要とするものを探

し、場合によっては金銭を払うことが必要であった。こういった努力をしてまで中国語文字情報に接しようとする者は、大衆化された現代の大学生の中には極めてまれにしか存在しない。日常生活の中で中国語文字情報に接する機会がなく、また接しようとする気持ちが無ければ、読解能力獲得の目的が曖昧となり、積極的な意味を見出さないまま「単位」のための学習を行うことになる。教える側にとっての最大の仕事は、如何にして彼らに中国語学習に対する興味や意欲を持たせるかということにあった。

マウスのクリック一つで、中国の様々な Web ページの文字情報を見ることが出来るようになったことにより、この状況は一変する可能性がある。そこには、政治、経済、文化、ありとあらゆる分野の情報が詰っている。図 1 は Web 探索の入り口としてよく使われている YAHOO の中国語簡体字版

新站 电邮 YAHOO! 雅虎中国 新闻 财经

网上直播 建国50周年庆典 雅虎科技新闻 ZDnet中文 焦点新闻

搜寻 检索说明

免费电邮 New! - My Yahoo! - 雅虎财经 - Yahoo! Messenger - 天气预报

休闲与运动
体育运动, 游戏, 旅游

社会科学
人类学, 社会学, 经济学

社会与文化
人物, 饮食, 宗教信仰

政府与政治
地方政府, 中央政府机关, 法律

科学
生物学, 地球科学, 天文学

娱乐
音乐, 电影, 动画与漫画

健康与医药
医学, 疾病与症状, 中国医药

区域
北京, 上海, 重庆, 天津

教育
大专院校, 中小学, 海外留学

参考资料
图书馆, 字典, 辞典

商业与经济
公司, 金融与投资, 分类广告

新闻与媒体
焦点新闻, 杂志, 报纸, 电视

电脑与因特网
因特网, 聊天室, 软件

艺术与人文
文学, 绘画, 表演艺术

焦点新闻
墨西哥七点五级强震 逾十人罹难
日本钷处理厂辐射外泄 民众撤离
德作家格拉斯荣获诺贝尔文学奖
中国庆祝建国50周年庆典

更多标题

雅虎精选
My Yahoo! New!
网上冲浪记 - 国庆同贺
各界庆祝国庆

世界各地 雅虎香港 - 雅虎台湾 - Yahoo! 新加坡 - 亚洲 - 日本 - 韩国 - 澳洲 & 纽西兰 - 加拿大
Yahoo! 法国 - 英国 & 爱尔兰 - 德国 - 意大利 - 丹麦 - 挪威 - 瑞典 - 西班牙 - 西班牙文

Smart Shopping with VISA

如何登录网站 - Yahoo! 中文说明 - 雅虎征才中

图 1

ページ (<http://cn.yahoo.com/>) だが、こういったページを通し、日本語の Web ページを見るのと全く同じ感覚で中国語ページを見ることが出来る。このページは YAHOO 日本語版ページ (<http://www.yahoo.co.jp/>) を始め、各地、各言語版のページと相互リンクが張られている。

つまり、教室で獲得した「読解力」を試す場が、日常的に用意されているのである。これらの情報を読みたいと思えば、あるいはこれらの情報を読みたいと思わせることが出来れば、教室での読解力獲得の目的が明確になり、学習に積極的な意味を見出せるようになる。当然、教室で獲得された「読解力」は、学習者により実生活の中で常に試されることになる。逆の視点から言えば、それは実生活の中で中国語の授業の質が試されることでもある。

では、学習の題材として Web 上の文字情報を用いることが出来るようになったことは授業にどのような変革をあたえるのか。これは、情報の使用方法により次の二通りが考えられる。

(1) Web 上の文字情報を印刷したものを教材として使う。

(2) それぞれの学生がコンピュータ画面上で直接 Web ページを見ながら学習する。

(1) のもたらしものは、情報の新鮮さ、多彩さであろう。固定化された教科書上の文字情報とは違い、その都度、学生が興味を抱きそうな情報を教材とすることができる。

しかし、中国語学習環境により大きな変革をもたらすのは(2)の方である。

コンピュータ環境下の学習の最大の利点は、一斉学習からの解放である。これまで、講読の授業は、教室にいる全ての学生が教科書あるいはプリントの同一箇所を一斉に学習してきた。授業は一般に＜学生による訳読→教師による講義→一斉音読＞これを幾度か繰り返す形で進んでいく。訳読を担当する学生は、事前に決められている場合もあるし、名簿順、順不同に指名する場合もある。いずれにせよ、積極的な関与は指名を受けた時だけである。それ以外の時間は、熱心な学生は教員の説明に耳を傾けているが、大方は情眠を貪ることになる。これを避けるために、順不同の指名、訳読の問題箇所を他の学生により指摘させる等の手段が講じられることになる。

一斉学習からの解放は、この強制された時間の流れから学習者を解放する。さらに、個別学習を中心とした授業では、教室内の学生全員が同一の強制された教材を読む必要すらなくなる。学生は自らの課題、興味にあった中国語文字情報を手に入れ、自らのスピードに合わせて読解していくことが可能になる。当然、教える側の役割もこれまでとは変わってくる。これまでのように、知識を伝授するというスタイルではなく、それぞれの学生が必要とする中国語情報を手に入れ、それらを正確に読んでいくという個別の学習をサポートするというスタイルに変わる。

初等・中等教育の現場では、知識偏重教育からの脱皮を目指し、自ら課題を設定し、必要な情報を集め、課題を解決していく能力、つまり「自己学習能力」の獲得を目的とした教育へと大きく転換しつつあるが、このスタイルの授業では教室での学びがそのまま実生活での学びにつながっていく。この教室での学習がそのまま実生活につながっていくという感覚がこれまでの講読中心の授業には欠けていたのではないだろうか⁽²⁾。

2. 実際の授業

今回の実験は、2 年次の講読中心授業で行った。具体的な授業科目名、対象学生及び授業環境等は以下の通り。

[授業科目名] 中国語Ⅱ講読

[対象] 教育学部 2 年

[形態] 通年週 1 コマ (90 分), 2 単位。選択必修。登録人数 40 名。

[教室環境] CALL 教室 (学生用端末 42 台)

授業はほぼ毎回、表 1 のように行った。

表 1

学習項目	学習内容、() は教員の準備等	時間
ヒアリング		30 分
ヒアリング	(授業開始前にヒアリング教材を準備) 教室にきた学生から、PC を立ち上げ、ヒアリングを行う。LL 機器の操作で、「対話」とそれをまとめた「文章」を繰り返し聞き、Word 上に「文章」部分の中国語を書き取る。 (提示文章の準備、Web 探索例示文章の準備)	20 分
文提示	「対話」と「文章」を提示する。一斉音読。	5 分
質問	「対話」と「文章」についての質問 4 問を行う	5 分
Web 探索		60 分
例示解説	前回の報告の中から、一つを選び、提示画面に出し、誤読箇所の注意や、説明を行う。	15 分
Web 閲覧	各自の PC 上で、中国語入力ソフト cWnn 付属の中 日・日中辞典を参照しながら、自由に閲覧する。その 際、閲覧したページの URL、概要等を Word 上にメモ 書きする (本文も引用)。 (教卓の PC で学生の作業状況を確認する。質問のある 学生は CALL 又は挙手。個々の学生の質問に答えたり、 解説を加える。)	35 分
報告作成、提出	授業中の Web 探索結果を Word 上に整理し、サーバ 上の課題提出フォルダに提出 (フロッピーにも自己保 存)。	10 分

コンピュータ上の中国語を読んでいくという作業では、音声面での学習を行うことができないので、この面を補うために、授業開始時にヒアリングを行うことにした。このヒアリングが中国語入力の練

習や、コンピュータ上の辞書を引く練習にもなった。

ヒアリングの題材には、1 年次後期に学習する程度の「対話」とその内容をまとめた「文章」を録音したものを使用した⁽³⁾。LL システムを利用して、分からないところは何度も聴き、「文章」の部分を Word 上に中国語で書き取るというものである。授業開始前に準備を行い、入室した学生からコンピュータを立ち上げ、ヒアリング学習を開始する。ヒアリングの内容は表 2 のようなものである。

表 2

[対話]	[文章]
请问，你是山本小姐吗？ 是的，您贵姓？ 我姓李，叫李平，是这个学校的教师。 你就是李老师，认识您很高兴。 我也很高兴。你什么时候到的？ 昨天到的。 这是学校安排的日程表。 谢谢。以后请多关照。	山本同学是从日本来的很漂亮的留学生。她昨天到的学校。李老师是我们学校的教师。他们今天第一次见面。

[対話] を参考にしながら [文章] の部分のみを Word 上に中国語で書き取らせる。時間に余裕がある学生には、[対話] の部分も書き取るように指導している。

一通り書き取りが終わった頃に、[対話] [文章] の中国語をピンイン付きで提示し、一斉音読する。続いて、[対話] [文章] の内容に関して表 3 のような中国語による質問（聴き取り）を 4 問出し、学生を指名して中国語で答えさせる。

表 3

- | |
|--|
| <p>(1) 山本小姐是从哪儿来的留学生？
(2) 李老师叫什么名字？
(3) 山本小姐什么时候到的？
(4) 李老师给她什么东西？</p> |
|--|

ウォーミングアップとしてのヒアリングが終わった後で、Web 探索による学習に入る。まず、前回の報告の中から 1 つ選び、提示画面で示し、解説をする。例えば表 4 のような例を出す⁽⁴⁾。

これは、第 2 回目の Web 探索学習終了時に提出されたもので、翌週の授業で提示した例である。始めの数回の授業は、中国語のインターネット環境、Web 検索の方法、コンピュータ上の辞書の使用方法等に慣れておらず、実質的な読解作業は殆どなされていない。回を重ねるに連れ、読解作業が順調に進むようになった。ただし、この授業で初めてコンピュータに触ったという数名の学生は、前期終了時になってようやく自力で作業を進められるようになった。この回は、「誤読箇所」以前の段階なので、上記提示画面をもとに、引用部分全体について若干の文法説明をしながら解説した。

残りの時間は、Web 探索による自己学習の時間に当てる。コンピュータ上の辞書を引きながら、自分自身の興味に従って中国語の Web ページを自由に閲覧する。当初は、辞書の引き方もごちなかつ

表 4

<http://www.peopledaily.co.jp/leader/dl/a1381.html>
中国での日本紹介 No.2 (住んでる人編)

居民

1 2 4 9 6 万, 城市人口占 7 6 %。人口分布极不平衡, 多数密集于各岛沿海平原和沿河地带, 以东京、大阪、名古屋三大城市为中心的地区集中了全国人口的一半。人口稀少地区为北海道、山阴和四国部分地区, 除北海道和北方领土有少数阿伊努人外, 几乎全是大和民族。大多数居民信神道和佛教。日语为国语, 阿伊努人通用阿伊努语。外侨以朝鲜人和侨华为多。

アイヌ人は“阿伊努人”と書くらしい。

日本の人口分布は不均等であり、東京、大阪、名古屋に集中している。

だが、前期を終える頃にはスムーズに引けるようになった。学生は、調べたページのアドレス、内容等をコピー&ペーストで Word 上に貼りつけ、そこに解釈やコメントを付けていき、授業時間の最後に、当該時間に調べたものをまとめあげ、サーバ上の課題提出ホルダーに提出する。表 4 のような形のもものが毎回提出される。

3. 学生レポート

前期の最後に、半年間の Web 探索のまとめとしてのレポートを提出してもらった。以下にその 1 例を引用する。

表 5

僕は結構健康マニアなところがあって、テレビ番組でも「おもいっきりテレビ」や「あるある大辞典」などをつい見てしまいます。そんな僕が前期中に検索したいと思ったテーマが「健康」についてであり、興味をもったのが北京日報のコラムで「健康指南」というページでした。まーほんとにちょっとしたページなのですが、そこには七つに分けて食べ物や食べ方についての健康法が載っており、全部載せるつもりだったんですがこれを読んでもし興味をもったらそちらを見てもらえばいいので今回はその中から 3 つだけ選んでここで紹介し、簡単な内容やちょっとした感想を添えたいと思います。

<http://www.beijingdaily.com.cn/jiankang.htm>

我国科学家的发现：生吃萝卜好

常言道：“冬吃萝卜夏吃姜，不劳医生开药方”；“萝卜上市，郎中下乡”。其中隐含着说明了萝卜具有的防病、治病功效。近年，中国科学家研究发现：细嚼、生吃萝卜可抗癌。

1996 年我国科学家宣布，萝卜中含有一种抗肿瘤、抗病毒的活性物质——“干扰素诱生剂”。实验证明，此物质能刺激细胞产生干扰素，对人的离体食管癌、胃癌、鼻咽癌、子宫颈癌等细胞均有显著的抑制作用。研究证明，干扰素诱生剂的有效成分分为双链核糖核酸。有趣的是，萝卜中的双链核糖核酸对口腔中核糖核酸酶的耐受

性相当高, 在呑咽中不易被降解, 且无任何副作用。但萝卜煮熟后其有效成分被破坏, 只有生吃细嚼才能使其中的有效成分释放出来, 但需注意的是, 生吃萝卜半小时内最好不吃其他食物, 以防其有效成分被稀释。一般每日或隔日吃 100 至 150 克即可。白萝卜、青萝卜和心里美萝卜都含有相同的干扰素诱生剂成分。

ここには大根の効能について書いてあります。はじめは「萝卜 luó bo」というのがなにかわからず、ピンインもわからなかったの、何について書いてあるのかまったくわからなかった。なんか「夢」という字に似ているので夢についてなのかなって思ったんだけど、「有効成分」とか「食物」とかって書いてあるのでこれは食べ物だなんてはじめて気がきました。中国の科学者の研究によると、大根には癌を抑制する成分が含まれているらしい。しかし煮るとその有効成分が出てしまいます。毎日か一日おきに 100~150 グラム生で摂取するのがいいそうです。そうするとおでんの大根は栄養が出てしまった残りカスってこと?。あんなにおいしいのに。これからは生でガブガブいきます。

保健食品的“食忌”原则

食物的性味与药物一样, 有寒热温凉四性, 辛甘酸苦咸五味。中医理论有五味可入五脏, 即“酸入肝, 苦入心, 甘入脾, 辛入肺, 咸入肾”之说。饮食调和才可使五脏各得其味, 维持平衡、发挥正常功能, 方能有益于健康。如偏嗜五味则会造成机体的伤害。即: “酸伤筋, 苦伤气, 甘伤肉, 辛伤皮毛, 咸伤血”等。进补各类保健食品时, 一定要注意自身健康状况(生物个体差异) 适时适量。营养保健食品也有全营养普遍进补和针对性的重点进补之分。

食物には寒熱溫涼の四つの性質があり、辛味、甘味、酸味、苦味、塩辛さの五つの味がある。中国には「酸味は肝臓、苦味は心臓、甘味は脾臓、辛味は肺、塩辛さは腎臓に入る」という理論があり、これらをバランスよく摂取することにより正常な効能を発揮し、健康を維持できるそうです。僕は甘味と辛味のあるたべものが好きだがこれからは残りの三つの味も摂取するように心がけようと思う。

饮茶保健

红茶性微温, 绿茶性偏凉, 花茶性升散; 所以, 体质偏寒者宜饮红茶; 偏热者宜饮绿茶; 春天阳气升发, 饮花茶为好; 夏天气候炎热, 饮绿茶为当; 秋冬季天气寒冷, 饮红茶为佳。

生活水平的提高, 使一些人追求鱼肉荤腥、糖果甜食及香醇美酒等美味佳肴。这些酸性食物食用后在体内可产生乳酸、尿酸等酸性代谢废物, 致使血液酸度下降, 形成酸性体质。偏酸性体质是一种病态体质, 易使人产生疲劳、情绪急躁、胃肠闷胀、消化不良、呼吸加快、智力减退等慢性酸中毒现象。茶叶是一种优质的碱性饮料。当人们饮茶后, 茶水在体内迅速吸收与氧化, 产生浓度较高的碱性代谢产物, 中和血中的酸性代谢物质, 维持血液的酸碱平衡, 使人体内保持在正常的弱碱性状态。日本科学家发现, 常用红茶漱口有预防流感和抗龋齿的作用。因此在流感高发季节, 应常饮用红茶或用红茶漱口。

これはお茶による健康法です。生活水準が上がるとひとは好んで魚や肉、飴などの糖類、酒などを食べたり飲んだりするが、これらは酸性の食品で体内に入ると乳酸、尿酸などの酸性代謝物になり、体が酸性の体質になります。酸性の体質は一種の病気でさまざまな症状をひきおこします。そこでお茶を飲むことにより血中の酸を中和して体を正常に維持することができます。日本の科学者はお茶を常に飲むことにより流感を予防できることを発見した。酸性食品が好きな人は成人病を予防するためにもお茶を飲みましょう。最近は何でもすごい種類のお茶があるので、毎日違うお茶を飲むのもいいですね。

この学生は、自分が興味を持っている「健康」に関するページを中心に探索をしている。このレポートの中で注目すべきところは「はじめは『萝卜 luó bo』というのがなにかわからず、ピンインもわ

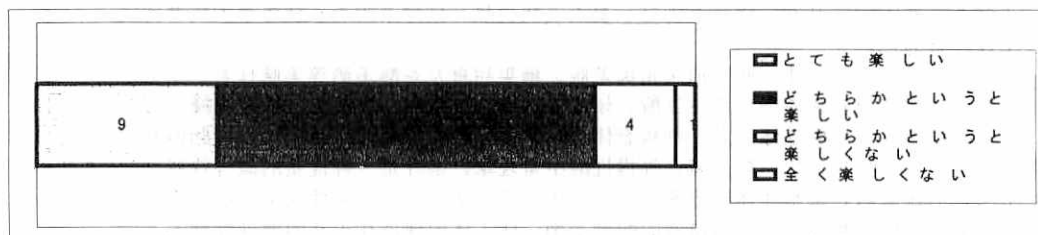
からなかったのに、何について書いてあるのかまったくわからなかった。なんか『夢』という字に似ているので夢についてなのかなーって思ったんだけど、『有効成分』とか『食物』とかって書いてあるのでこれは食べ物だなんてはじめて気がつきました。」と記している点である。一般的な講読中心の授業では、分からない単語はとにかく辞書を引き、辞書に書いてある意味を組み合わせで文章を訳していく学生が多いのに対し、この実験では、まず文章全体に目を通して、書かれていることのおおまかな内容を理解し、分からない単語は文脈の上から意味を読み取ろうとする学生が多かった。

今回提出されたレポートは、HTML 化し、全て Web ページ上に公開した⁽⁵⁾。このことは、最初の授業時間時に予告してあった。自分自身が調べたものが他人に読まれるということは、他者評価を伴う自己表現となり、そのことが、授業への積極的関与を生むのではないかと考えたからである。また、後期最初の授業は、Web ページ上の他人のレポートを読み、自分のレポートも含めた感想を提出することから始めた。全員のレポートを読むことにより情報が共有化されることになる。また、他人のレポートと自分のレポートを比較することが後期の Web 探索の方針を決める上で大きな手がかりとなると考えた。実際、学生たちは自分を含めた全員のレポートを踏まえて、後期の Web 探索の対象や方法を決めたようである。

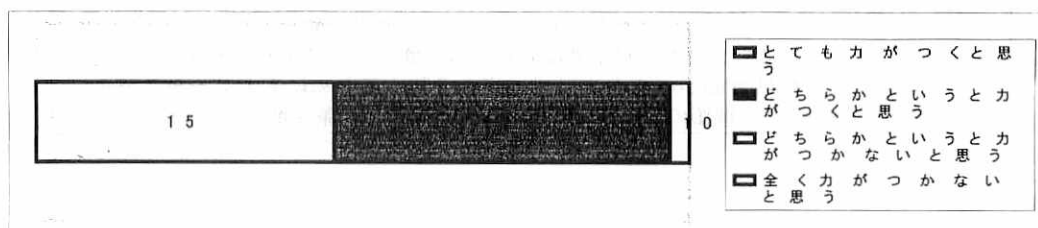
4. 学生アンケート

前期最後の授業時に、授業の形式についての学生アンケートを実施した。回答数は 33。

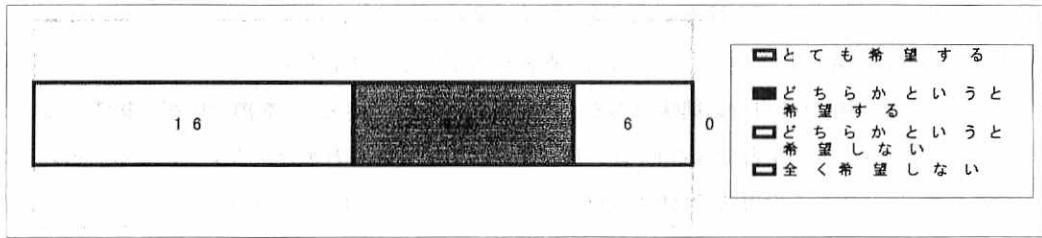
○ LL システムを用いたヒアリング学習は、普通の形式の授業と較べて、楽しいですか。



○ LL システムを用いたヒアリング学習は、普通の形式の授業と較べて、ヒアリングの力がつくと思いますか。



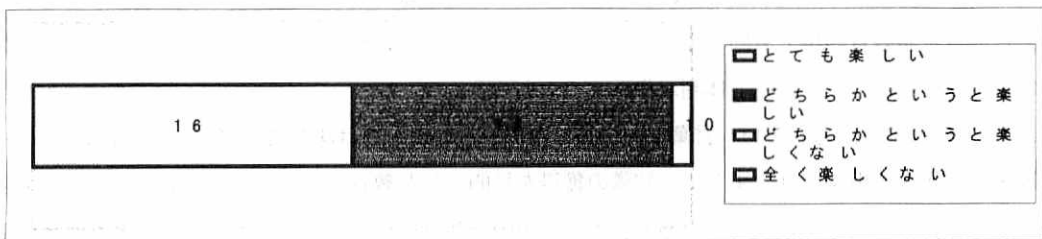
○ 後期も LL システムを用いたヒアリング学習を希望しますか。



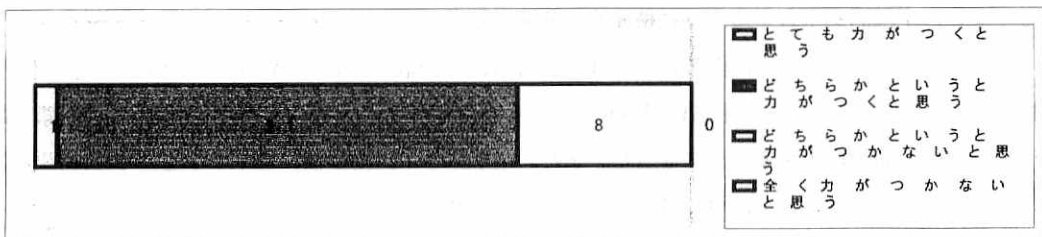
85%の学生がヒアリング学習を楽しいと感じ、97%が力がつくと思っており、82%が学習の継続を希望している。「理由」を記入する欄には、「分からないところが何度も聞ける」「自分のペースで学習できる」「分からない所がだんだん分かっていくところが、推理小説のようだ」などと記されていた。自分のペースで、自力で少しずつ分かっていくところに好感を持っているようである。

Web 探索学習についても同様のアンケートを行った。

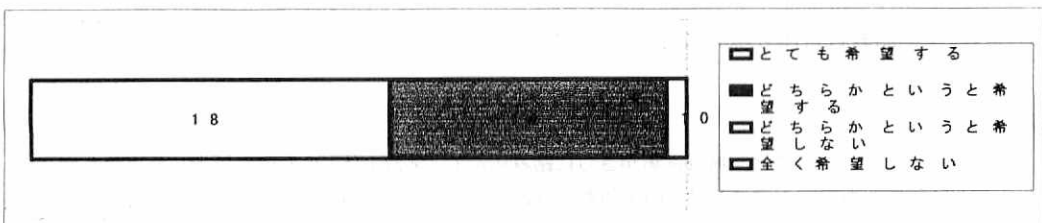
- 自由にホームページを検索する形式の授業は、普通の形式の授業と較べて、楽しいですか。



- 自由にホームページを検索する形式の授業は、普通の形式の授業と較べて、中国語を読む力がつくと思いますか。(未記入 3名)



- 後期も自由にホームページを検索する形式の授業を希望しますか。



97%の学生がホームページを検索する形式の授業を楽しいと感じ、67%が力がつくと思っており、97%が学習の継続を希望している。「楽しい」「継続を希望する」は1人を除きほぼ全員が肯定的な回答であった。その理由は「自分の興味のあるものを読むことができる」「本物の情報に接することができる」「自分のペースで学習できる」「コンピュータと中国語の両方が分かるようになる」といったものであった。しかし、この方法では中国語を読む力がつくとは必ずしも思われていないようである。理由としては、「大体の意味がわかってしまうので細かい意味を読み取らなくなってしまう」「自分の読みが正しいかどうか分からない」といった点が挙げられていた。この点については、何らかのフォローが必要であろう。

おわりに

今回行った Web 探索を授業の中心に据えるという実験は、英語教育や日本語教育では決して新しいことではない。インターネットという英語の情報が満ち溢れている世界を目にしたとき、英語学習者はこの情報を読みたいと思い、教える側もまたこの情報を使った学習ができないか、と自然に考えた。日本語教育の場でも同じである。この考えは既に実行に移され、インターネットを読みながら学習していくためのサポート体制が作られつつある⁽⁶⁾。

また、「自己学習能力」という言葉も、初等・中等教育の現場では決して耳慣れないものではない。初等・中等教育の現場では今まさに、知識の獲得を目的とした教育から「自己学習能力」の獲得を目的とした教育へと大きく転換しつつある。大学の中国語教育の現場においても、少なくとも何らかの形で「自己学習能力」と結びついた知の獲得が必要であろう。教室内での学習に終わることなく、その後の自己学習に結びついていくような学習のありかたを探索していく必要がある。そのような学習のあり方があって初めて、現代の大学において中国語を必修科目あるいは必修科目に準ずる形で履修する学生に、中国語を学習することに積極的な意味を見出してもらえるのではないだろうか。

インターネットの普及が中国語教育に及ぼす影響は、今回取り上げた Web 上の中国語文字情報の増加という面だけではない。中国語の Web ページを自らが作ることで受信だけでなく中国語文字情報の発信も簡単に出来るようになった。また、電子メール、掲示板、チャットを使った中国語文章によるコミュニケーション、更には、音声、映像も総動員した中国語による総合的なコミュニケーションも可能になってきている。中国語による情報の発信やコミュニケーションが紙を介してのものと実際に対面しての口頭によるものに限られていた時代はもはや過去のものになっている。今後、インターネットを介した情報の発信やコミュニケーションの占める割合が従来のものを凌駕していくのであれば、中国語教育自体も現実に合わせて変容していくしかあるまい。

〔注〕

- (1) 「自己学習能力」については、城谷武男がさらに踏み込んで「学習主体」の形成を目指した実践を行っている。（「1992 年度北海学園大学における中国語教育状況報告―「試案」実践 5 年間の総括―」北海学園大学学

園論集 75, 1993, 「学習主体形成についての覚書—選択中国語 II B 授業試案—」北海学園大学学園論集 83, 1995)

- (2) 現在、講読授業の教科書の殆どはピンイン付き分かち書きを採用しているが、この形式に中国語学習が教室に閉ざされたものになっている一つの原因がある。入門段階ではピンイン付き分かち書きは非常に有効だが、中国語学習の最後まで同様の形式であった場合、実生活の中で、分かち書きの無い生の中国語の文章を読むことはまず不可能である。「学習者のレベルにあわせて」という言葉をよく耳にするが、講読を中心とした中級教科書は安易に分かち書き形式を採用すべきではないと考える。少なくとも中国語学習の終了する段階では生の中国語の文章と同じ形で学ぶべきである。
- (3) 『スリーステップ中国語 II—語法と表現 [応用編]—』(村上公一・黒坂満輝・楊曉安著、陳浩・梁月軍録音、同学社、1997) を用いた。
- (4) 中国に関する大きなニュースがあった場合は、学生の報告から選ばずに、そのニュースを報じている Web ページを取り上げたこともある。
- (5) 筆者の Web ページ (<http://faculty.web.waseda.ac.jp/kimikazu/>) の [中国語 II (学習支援)] に掲載してある。
- (6) 例えば日本語教育では、川村よし子他による本格的 Web 日本語読解支援システム「リーディング チュウ太」(<http://language.tiu.ac.jp/>) が稼働している。